



うのうら まさなり
鵜浦 昌也
(創生会)

通岡ICのフル化は 三陸道4車線化とあわせ要望



こちらから視聴できます

問 三陸沿岸道路の通岡インターチェンジが上下線とも出入り可能なフルインター化に向けた見通しはどうか。

答 三陸沿岸道路は令和3年12月に全線開通し、3年が経過しようとしている。昨年6月に南部沿線の10市町村で「三陸沿岸道路東松島・山田間機能強化連絡協議会」が組織され、本市からは通岡インターのフルインター化と4車線化を要望した。

問 具体的な事業化のめどは。

答 この道路に関し、現在さまざまな機能強化に向けた事業が実施されている。国は今後も防災面など、緊急性を勘案しながら整備に努める」としており、通岡インターのフルインター化の必要性は十分認識してもらっているが、事業化の

時期は見通せない状況だ。

市制施行70周年は

問 令和7年度は、市制施行70周年を迎える。記念事業をどのように考えているか。

答 市民や企業、団体などと連携しながら式典の開催や日本遺産に関連する事業など、70周年の節目にふさわしい事業を展開していきたい。



三陸道の通岡インターチェンジ

おおわだ かよこ
大和田加代子
(碧い風)

運動にポイント付与は 来年度事業として検討中



こちらから視聴できます

問 本市の「はまかた健康ポイント事業」に、運動によるポイント付与などを追加することはどうか。

答 来年度事業として、各種スポーツ教室に参加した人へのポイント付与を検討している。

問 個人でジヨキング、ウォーキングなどに取り組んでいる人もいる。コース作りから大会運営まで自主的に行っているグループもある。こういった取り組みにもポイントを付与することで活動の背中を押すことも必要と考えるがどうか。

答 体育協会や市が実施する大会やイベント参加へのポイント付与は考えていた。地域で自主的に行う活動へのポイント付与は課題もあるが検討していく。



一本松マラソンで日頃の成果を競う参加者

問 トレイルルートの管理は潮風トレイルのルート上には松くい虫等による倒木などの危険な所が見られるがどうか。

答 みちのく潮風トレイル関係自治体協議会でこの夏、ルートの安全対策について国に対して要望を行った。これについては自治体の一致した要望なので、今後も強く働きかけていく。



さ さ き りょうま
佐々木良麻
(とうほく未来創生)

基金の債券運用なぜ開始 復興事業完了で基準改正



こちらから視聴できます

問 市は、本年7月に岩手県発行の債券「グリーン／ブルーボンド」を購入し、基金の債券運用を開始した。これはどのような考えによるものか。

答 ハード面での復興事業がおおむね完了し、資金の動きをある程度把握できる状況となったことから基金の運用基準を改正し、預金だけでなく債券でも運用できることとした。そんな中、岩手県の環境改善効果を有する事業の資金調達として「グリーン／ブルーボンド」が発行されたことから購入に至った。

問 債券運用を行なった基金はどれか。また、その規模は。

答 現時点で債券により運用している基金は、財政調整基金及び市営住宅基金。債券の額面金額の合計は3億4千万

円である。

事務事業評価は

問 コスト指標などの客観的数値を用いて業務改善に繋げる行政評価手法である事務事業評価を令和8年度以降に再開する予定としているが、その実施形式は。

答 他市の実施事例を参考としながら、本市の現状に合致した新たな評価基準などを検討していく。



グリーン／ブルーボンドは
県内の藻場整備等に活用



いとう あきこ
伊藤 明彦

新笹ノ田へ見通しは 国支援で着実に進むと認識



こちらから視聴できます

問 市は、新笹ノ田トンネルの早期事業化に向けて国県に対して、一関市と合同で要望活動を行ったが、その手ごたえはどうか。

答 国土交通省からは、「現在、岩手県で進めている技術課題等検討協議会の検討が一日も早く進むようしっかりとサポートして行く」との心強い話をいただいた。事業化に向けて着実に進んでいくものと認識した。

被災文化財は

問 国の第2期復興創生期間が終了する来年度以降も救出された文化財資料のレスキュー作業は継続できるのか。

答 市は、令和8年度以降も安定化処理の継続を要望してきたが、今後は、県教育委員会を通じて国に新規事業によ

る処理継続を要望していく。

問 県立美術館に一時保管されている修復した美術品が市立博物館生収蔵庫に移送される。これらの展示・保全施設の開設に向けての計画は。

答 閉校した校舎など既存施設を活用する。来年度に改修工事と並行して展示計画を策定し、令和8年秋に一般公開を目指す。



早期事業化が望まれる笹ノ田地区